沢田内科医院ニュースレター
第83号

小堀未希さんが看護学士に！

小堀未希さんが看護学士を授与されました。何と言っても、働きながら看護学士になったことはすごいことです。大学に通学しないで働きながら看護学士になった話は、未確認情報ですが弘前市内では聞いたことがありません。少なくとも4,000人以上いる弘前市医師会看護専門学校卒業生の中では第1号です。

看護学士の学位記を手にする小堀未希さん

小堀さんは准看護師として日中は沢田内科医院で普通に働き、夜間定時制である弘前市医師会看護専門学校を卒業しました。3年半前のことです。他の同期の人たちは大きな病院に就職したのですが、小堀さんは一人だけ開業医である私の医院で引き続き働くことを選びました。私は、小堀さんの将来の可能性を広げておくために、専修学校になった利点を生かす意味でも放送大学に編入し、看護学士を目指すことを提案しました。そうなれば、看護師としてだけでなく、看護専門学校の教員として働くこともできるよとも。

看護学士を申請するためには論文を提出する必要がありますので、看護専門学校を卒業した時点でテーマを糖尿病としました。糖尿病を理解することは全身の病気を理解することに直結しますので、看護師としてこの分野に力をいれて勉強することを勧めたのです。

平成23年4月に放送大学に入学した時点で看護専門学校の62単位が大学の単位として認められました。放送大学で残り62単位を取得し、2年間在学すると大学卒業の要件を満たします。3年の予定だったのですが、平成25年9月で放送大学で65単位を修得したため、放送大学を卒業しました。放送大学では教養学士が授与されました。

平行して進めていた糖尿病療養指導の仕事内容をまとめ、平成26年4月に大学評価・学位授与機構に論文を提出しました。400字詰め原稿用紙で数えると約35枚の力作でした。6月8日に小論文試験があり、8月22日付で学士（看護学）が授与されました。合格は確信していたのですが、学位記が送られてきた時は大変な喜びでした。私にとっても最高に嬉しい出来事でした。

これは看護学士の副産物で、前回のニュースレターで紹介しましたが、平成26年5月、資格審査と認定試験に合格して日本糖尿病療養指導士にも認定されました。この資格を持つ看護師も弘前市内には数えるほどしかいません。

今回の看護学士が授与されたことの特徴がいくつかあります。弘前市医師会看護専門学校が専修学校になったことで看護師という国家資格を得るだけでなく、大学に編入して放送大学を卒業したこと、さらに、専門分野の単位をそろえ大学評価・学位授与機構から看護学士の学位を授与されたこと、開業医で働きながら経済的に自

立して看護学士を取得することができたこと、このような特徴があります。これらのことが現在働いている看護師の励みになり、弘前市医師会看護専門学校へ進学しようとする高校生の動機付けになるのではないか思っています。

小堀さんは、来年度から母校で講義を受け持ち、教壇に立つことになっています。さらに臨床経験を積み、４年後を目処に弘前市医師会看護専門学校の教員になる予定です。小堀さんの小学校の卒業アルバムには、将来なりたいのは「先生」と書かれていました。そして、「やるときゃやるのよ、まかせておいて。」と担任の先生のコメントがついてました。

最後にエピソードをひとつ。皆さん、ペンダコが破れるほど勉強したことがありますか？　看護師は看護記録を書いたり、結構、書くことが多い職業だと思います。看護学士の認定試験は、提出した論文に対しての筆記試験です。これは、論文に関係する内容であることが分かっていますので、対策問題を10個ほど作り１題45分を目安に約1,000文字で説明する練習を何回も何回も繰り返しました。その途中でこのペンダコが破れたのです。

破れた中指のペンダコ

弘前市医師会ねぷた実行委員長

弘前ねぷた祭りも終わりに近づいた８月５日夜、ねぷたで死亡事故があったという情報が入った。弘前ねぷた祭りでは初めてのことである。翌日、関係団体の協議の結果、残りの日程はすべて中止となった。

ねぷたは多くの人が綱を引くので、運行自体で事故が起こる可能性がある。そのため、各団体は安全に運行できるように最善の安全対策を取っている。本体が大型化し、昇降装置を持つねぷたが多くなった現在、ねぷた本体の安全対策も必要であることを今回の事故が教えてくれた。

私の部屋には三浦呑龍さんの見送り絵が掛けてある平成７年に開業した時にお祝いとして頂いたものである。この絵を見ながら、いつかはねぷた祭りに出ようと心の中で思っていた。そして昨年の春、「今年はねぷたに参加する」と密かに決めた。

医師会事務局と健診センター職員と一緒に

そんな時期に、次男の嫁が八戸からやってきた。彼女は物心がついた時にはすでに八戸三社大祭で太鼓をたたいていた、根っからのお祭り好きである。弘前に来るなり、ねぷたに参加したいという。これで私のねぷたの参加は決まった。

昨年夏、私は初めて医師会ねぷたに参加した。弘前市医師会では３日間出陣したが、大円寺で買った新しい笛を持って私は皆勤した。そして、ねぷた祭りが終わった後の打ち上げの席で思いがけないことが起こった。何と、今年のねぷた実行委員長にされてしまったのだ。

その１年前、看護専門学校担当

理事の私は、運営委員会委員長をある先生にお願いした。「先生、委員長には先生しか適任者はいないんですよ。何とかお願いしますよ！」と委員会の前に電話で無理にお願いした。もちろん、委員会の組織会ではスムーズに委員長が決まった。

左が澤田真奈美さん、右が相馬知香さん

さて、打ち上げの席での話です。ねぷた運営委員会を実質的に牛耳っていたある先生は、私のテーブルに来て椅子の横にしゃがみながらこう言った。「先生、委員長には先生しか適任者はいないんですよ。何とかお願いしますよ！」と。どこかで聞いたことがあるセリフである。隣に座っていた友人の整形外科医も、「歩けるうちにやっておいた方がいいんじゃないの！」と。私は何の反論もできずに、すぐに就任の挨拶をしたのだった。

平成26年5月、ねぷた小委員会で具体的なスケジュールが決定され実質的な活動が始まった。ねぷた絵師の三浦呑龍さんへのご挨拶、岩木山神社での安全祈願と晴天祈願、関係団体へ協力のお願い、いろいろな仕事が待っていた。7月31日の前夜祭で安全祈願の後、いよいよ出陣を待つだけとなった。

今年のねぷたは2日、4日、6日に出陣することになった。2日と4日は土手町コース、6日は駅前コースである。2日は晴天に恵まれたが、ねぷた小屋から出る時点で交通事情のために集合が遅れ、出番は最後の方となってしまった。出陣する前の楽しい時間を過ごし、いよいよ出陣である。一番町あたりで道案内の標識にねぷたがひっかかってしまい進行が遅れた。その後、土手町では交通標識に接触する事故があった。

ねぷた運行の後は、医師会屋上でなおらいを行い、事故もなく終了となった。　参加人数は約200人であった。4日は時折雨が降り、ねぷたにビニールシートを被せて待機した。進行中は時々小雨に見舞われたが濡れることなく無事に終了した。後は6日の駅前コースを待つだけとなった。ねぷたの死亡事故が起こったのはこの後である。そして今年のねぷた祭りはここで終了となった。

ねぷた祭りが終わった8月9日、実行委員会の慰労会が開かれた。その場で、不完全燃焼との理由で、来年度も引き続き実行委員長をやることに決まってしまった。9月4日にねぷた小委員会の反省会が開かれた。鍛冶町で開かれた反省会はまともに3時間も続いた。白熱した議論が続き、「委員長裁定」で決まったこともあった。熱い人たちの集まりだったそして、これが来年のねぷた祭りの始まりであることを知った。

弘前高校と弘前南高校の学校評議員

学校評議員という制度があります。平成12年に設けられ、地域住民が学校運営に参画する仕組みと位置付けられているようです。学校の教育目標・計画や地域との連携の進め方など、校長の行う学校運営について意見を述べるものとされています。

できるだけ幅広い分野から意見が聞けるように、保護者や地域住民などのうちから、学校評議員にふさわしい人を校長が推薦して決めるとのことで、私は県教育委員会から委嘱状を頂きました。

学校評議員は、学校運営などに関して意見を述べることを求められます。その際、個人の立場で意見を述べますが、どうしても自分が深く関わる限られた分野から見た意見になってしまいます。ですから、地域を代表する人の声を反映できているのか、心配になることがあります。

評議員会の議題としては、学校の教育目標や教育課程、遅刻など生徒の生活状況、進学状況、年度内に実施した行事などの報告、特色ある活動の説明、など全般的なことからかなり深く突っ込んだ内容まであります。

会議当日にこれらに関する資料が渡され、学校側の説明を聞きます。資料を見ながらすぐその場で意見を述べるのは、その学校に普段から接することなく、状況を把握していない私としてはかなり難しく、求められているレベルの意見になっていないのではないかと思うことがしばしばです。そのようなあいまいな理解のものに学校評価を行うことは、かなり無責任ではないかとも思います。

私は平成22年から3年間、弘前高校の学校評議員を務めました。自分の母校でもあり、校長も同年代だったこともあり、大きな教育目標からかなり具体的な内容まで話し合いができて結構面白かったです。そして、自分の高校時代と現在の高校の状況が大きく変わっていることを知りました。特にセンター試験が大きく影響して、勉強する態度が違いました。私たちの頃は、数学などは教室の進度とは関係なく独学で勉強する生徒が少なからずいましたが、今はそのようなことはないとのことでした。

授業を見ても、試験を意識して問題を解く授業が多かったのにはびっくりでした。これでは表面的なことしか勉強できないのではないかと思いました。そして、勉強方法も、先生が手取り足取りという状態で、すべてセンター試験で高得点を取ることを目標にしている印象を受けました。

平成25年から弘前南高校の評議員をしています。同じ県立高校で似た性格の高校ですし、他の人の意見を求めた方がいいと辞退したのですが、ぜひにということで引き受けてしまいました。

子どもの数が減ったことにより定員が少なくなったこと、弘前高校の男女比が固定でなくなったこと、弘前中央高校が男女共学になったこと、これらのことから市内の高校の性格が変わってきました。それぞれ特色を持たせようと努力しているようですが、理科教育に特色を持たせようとする南高校のメッセージが中学校の保護者や先生に伝わっているのか疑問でした。

弘前高校もそうですが、全国的に現役で大学に進学する数が多くなっているようです。かつては、半分が浪人して自分の志望する大学を目指し、「どうしてもあの大学へ」という生徒がたくさんいました。今は、「この辺でいいか」という生徒が多いのでしょう。もう少しチャレンジしてもいいのではないかと思います。しかし、先生方の話では、「保護者の意向で」とのことで、無難なところに落ち着くようです。

大手予備校の「代々木ゼミナール」が7割の施設を閉鎖するというニュースがありました。浪人がもっとも多かった時は30万人で、今は8万人まで減ってしまったということです。弘前高校と南高校の状況をみるだけでも、予備校が浪人生を相手にしている限り、ビジネスとして成り立たなくなっていることが理解できました。

学校評議員として外から意見を学校に入れるというより、先生方の方針や今の生徒の保護者の考え方が変化していることを知りました。むしろこちらが情報不足で昔の考え方をしているのではないか学校評議員として務まるのかと心配になるほどです。私も古くなりました。

発　　行：　〒036-8261 青森県弘前市茂森新町1-6-4　沢田内科医院　院長　沢田美彦
ホームページ：　http://www.sawada-naikaiin.com/　TEL 0172-37-7755　FAX 0172-37-7788